

# 6月20日（月）友達

みな  
皆さんには、<sup>いっしょ</sup>一緒に<sup>あそ</sup>遊んだり<sup>べんきょう</sup>勉強

したりする<sup>ともだち</sup>友達<sup>おも</sup>がいます。

<sup>せんじつ</sup>先日、<sup>どうとく</sup>4年生が<sup>べんきょう</sup>道徳の勉強で、

「<sup>ともだち</sup>友達と、うまくいってますか」とい

<sup>しつもん</sup>う質問<sup>せんせい</sup>を先生がしました。すると、

<sup>なんにん</sup>何人かが「<sup>い</sup>うまくいってるとは<sup>しょうじき</sup>言えない」と<sup>こた</sup>正直に答えてい

ました。その<sup>りゆう</sup>理由は、<sup>つぎ</sup>次のようなものでした。

<sup>あいて</sup>「<sup>かんが</sup>相手のことを<sup>じぶん</sup>考えないで、<sup>はな</sup>自分のことばかり話してし  
まうことがあるから」

「<sup>たまに</sup>、<sup>ケンカ</sup>ケンカをするから」

<sup>あいて</sup>「<sup>なに</sup>相手が<sup>かんが</sup>何を<sup>わ</sup>考えているか、<sup>とき</sup>分からない時があるから」

この<sup>じゅぎょう</sup>授業では、<sup>ともだち</sup>友達にどんな<sup>い</sup>言い方<sup>かた</sup>をすれば、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>かんが</sup>考え

や<sup>おも</sup>思いが<sup>つた</sup>伝わるか、<sup>かんが</sup>ということ<sup>こ</sup>を考えていました。ある子が

とっても<sup>はっぴょう</sup>すばらしいことを<sup>こ</sup>発表しました。

「<sup>おな</sup>同じことを<sup>い</sup>言っても、<sup>い</sup>言い方<sup>かた</sup>によって、<sup>あいて</sup>相手に<sup>つた</sup>伝わるか  
どうかは、<sup>ちが</sup>違う」

なるほどと、<sup>おも</sup>思いました。言い方<sup>い</sup>に<sup>かた</sup>気<sup>き</sup>をつけるだけで、<sup>ともだち</sup>友達

とうまく<sup>つ</sup>付き<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>えるかもしれませんね。

村越 新

